

## 2024年 11月度 売上速報

## ■ 百貨店事業

阪急阪神百貨店	売上高前年比(%)
阪急本店	113.8
阪神梅田本店	79.0
支店計	103.8
全店計	105.8

※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、月次の売上速報および営業概況につきましては、当該基準等適用前の取扱高で開示しております。

## ○ 全店の概況

- 大阪では、最高気温が20度を超える中旬までは、秋冬ファッションの稼働が鈍かったものの、中旬以降の気温低下により本格稼働し、結果、阪神梅田本店以外の都心店各店の売上高は前年実績を上回り、中でも阪急本店は2ケタ増と全体を牽引した。
- 阪神梅田本店は、前年に実施した阪神タイガースの日本一祝賀セルの反動もあり実績を下回った。
- 免税売上高は、前年に対して約4割増、阪急本店も約4割増と引き続き好調で、国慶節のあった前月を上回った。同月の売上高では18ヶ月連続で過去最高を更新。

## ○ 阪急本店の概況

- 11ヶ月連続で、同月の売上高において過去最高を更新。
- 中旬まで気温が下がりがきらない状態が続いたが、婦人・紳士ファッションの店頭売上高はいずれも前年に対し2ケタ増と好調な結果。中でも、アクセサリ、バッグ、インターナショナルファッションの売上高は、約2割増と高い伸びを示した。また、化粧品や宝飾品の売上高においても前年の2割を超える伸びだった。コートやロングブーツなどはまだ動きに鈍さが見られたが、セーター、ジャケットやネックウエア、素材感のあるバッグなどが稼働。フライタルニースも引き続き活況で、アクセサリや宝飾品ではエンゲージリング、マリッジリングが好調。
- クリスマスギフトシーズンを迎え、アクセサリではまだまだ下見の時期ではあるが、クリスマス限定商品をご自身用として購入されるお客様が多く順調な滑り出し。
- 100万円以上の高額品の売上高前年比は、店舗全体の水準を大きく上回り、約2割増の結果。

## ※過去1年間の売上高推移

前年比(%)

	2023年度					2024年度							
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
阪急本店	116.1	115.1	120.2	132.0	130.0	129.6	146.1	137.7	120.3	115.5	113.1	108.1	113.8
阪神梅田本店	150.0	111.9	117.6	119.1	107.0	105.8	108.8	109.2	105.3	109.5	81.5	106.9	79.0
支店計	112.0	108.5	110.0	115.5	111.4	110.4	112.0	116.7	107.5	105.3	105.1	100.5	103.8
全店計	118.0	112.3	116.0	124.5	119.9	119.9	129.1	127.1	114.1	111.1	105.8	105.2	105.8

## ■ 食品事業

イズミヤ・阪急オアシス	売上高前年比(%)
全店計	99.2

関西スーパーマーケット	売上高前年比(%)
全店計	103.2

★数値は速報値のため、確報値とは誤差が生じる場合があります。

<本件に関する報道関係者お問い合わせ先>  
エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 メディアリレーション部 TEL:06-6367-3181